



「ふふっ☆ わたし気付いちやったんです。  
ライクからラブになれる手っ取り早い方法を」

「今よりもっと親密な関係になれば  
すぐにラブラブになっちやうと思っんですよね☆」



「だから…エッチしましょうよ」

「もー、そんなに怯えないでくださいよう」

「ちよつと強引にラチって裸に引ん剥いちやいましたけど  
すぐに気持ち良くなれますからー全部わたしに任せてくださいよ」

「それじゃまずはい…えい★」



「ほーい、立派な勃起おちんちんになりましたね。」

「ふふっ★わたしの力ってこーゆー事もできるんですよ。  
ピツクリしました?」

「それじゃあ…いただきます★」



「ん…♡ 先っぽが…♡…あっ♡…入って…♡このままゆっくり…  
奥まで…♡あん♡ そんなにビクビクって…♡させないでください。  
上手く入らなくなっちゃ…♡もう…♡大人しくしてください♡」



びくびく

うん

「はあ…♡ 全部入っちゃいましたね★」

「あんなに何度もコロシアイした者同士なのに  
「こんなふうに繋がっちゃうなんて、なんか不思議なカンジですね♪」

「運命カンジちやいますの?」

「ふふっ★ じゃあ、動きますよ?」

はあ…♡

トクミン♡



「んふっ♡ おちんちん…凄く硬くて…  
わたしの膣内…擦れて…あん♡  
こんなにすぐに気持ち良くなれるなんて…  
やっぱりわたし達って…相性が良いのかもですね♪」

んふっ♡

ぬちゅ♡

んふっ♡

「騎士さんはどうですか？…ふふっ★ 顔見ればわかりますよ」  
「我慢しないでいいんですよ？」

「素直になって一緒に気持ち良くなっちゃいましょうか？」

「ほらほら〜★ どうですか？ わたしの中…♡  
騎士さんに喜んでもらえる様に…♡ん♡ 精一杯おもてなししようって  
この日に備えてちゃんと予習もしてきたんですよ」

「わたしって好きになったら尽くすタイプなんです。  
そういうオンナノコってどうですか？  
騎士さんの恋人として、相応しくないですか？」





あゝ♡

はあ...♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

「わたしは騎士さんを体でカンジて...  
今まで経験したことないキモチに...胸の奥がキュン★ってしてきました」

「これが恋なんでしょうか？ はあ...♡ 不思議なキモチです...」

「あ...騎士さんのおちんちん...さっきより大きくて...あん♡  
ビクビクって...す♡おい♡」

「...れってえ...もうすぐ射精するって...とですよね？」



「良いですよー我慢しないでいつでも出しちゃっててください。全部膣内で受け止めますから」

「あはっ★ わたし上手く出来てたみたいですね。良かった♪」

「好きなだけえ…びゅーって射精して、キモチ良くなっちゃってください♪」

ちゅぽぽぽぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽぽぽ

ちゅぽぽぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

「え？ 赤ちゃん？ 妊娠しちゃうかも…ですか？」

「大丈夫★ わたしの超能力で上手く防ぎますから、なんにも心配いりませんよ」

「だからあ……遠慮なく…どうぞ★」



ツツツツツ  
ツツツツツ

んあぁぁぁ  
んあぁぁぁ

「ふわぁ…♡♡♡ 凄い勢いで奥に当たって…あん♡  
これ…わたしも一緒に…んツ♡♡♡」

「んあぁぁぁツ…♡♡♡♡♡」

「ああ♡♡♡ す」お…ツ…♡♡♡ こんなキモチ…

初めて…騎士さん…ツ…♡♡♡ はあ…ツ♡♡♡」

ツツツツツ  
ツツツツツ

ツツツツツ  
ツツツツツ

ツツツツツ  
ツツツツツ





「はあ…♡ 騎士さんがいっぱい射精したから  
わたしまで勢いでイっちゃいました★」

「一緒にイクだなんて！、とーってもラブラブだと思いませんか？」

「これはもう恋人同士と言っても過言じゃ……」

「それを通り越して夫婦になっちゃうのも良いかもしれませぬ★」

「はあ…」

「あ、そうそう、わたしの膣内に出された騎士さんの子種ですけどー…  
避妊もできますけど、逆に高確率で妊娠も出来るんですよ?」

「わたしの超能力で一緒にくっつけちゃえば良いんです! そうしましょうか?」

「ふふっ★ 冗談ですよ!。そんな顔しないでください。」

「やっぱりお互い愛し合っていないと、赤ちゃんは作れないですよね」

「わたしは、そうなってもいいかなーってキモチが揺らいできてますので  
後は騎士さん次第なんですけどね!」



「それじゃあ、続きしましょうか？」

「もちろん一回だけじゃ終わりませんよ。」

「せっかく結ばれたんですから、今日は一日付き合ってもらいますから★」

「カクゴ…してくださいね。」





おわあ...

















